

事例5-13

取組名	LINEを利用した住民への周知等		
町会名	はた 波田11区町会（波田地区）	町会 データ	・人口／274人 ・世帯数／120世帯 ・高齢化率／36.1% ・町会加入数／82 ・隣組数／10
取組概要	○ LINEグループを構築し、災害時の安否確認や通知等に活用することで、町会内の情報伝達を迅速化		

背景・課題

- ・ R3.8に町会内の堰が溢水し、床下浸水や道路・農地への土砂流入による水害が発生した。また、堰の下流域の多くの住民は、大雨を承知していたが、近くで溢水による災害が発生していることを知らなかった。
- ・ 溢水に気が付いた住民が、加入しているグループLINE（GL）に撮影した写真やメッセージを投稿し情報を共有した。

経過・取組内容

- ・ 町会住民が災害の経験・情報を共有したことで、町会役員から、災害時の安否確認の重要性が指摘された。
- ・ 迅速な情報伝達及び確認が容易という観点から、従来の紙による安否確認ではなく、LINE（アプリ）を利用した安否確認の導入が提案された。
- ・ R4年度中に町会役員で検討し、R5年度から町会運営委員（民生委員、町内公民館役員を含む町会役員）及び町内公民館役員でGLを立ち上げ、情報の伝達・共有を開始した。
- ・ R6年度からGLを本格導入し、町会運営委員、町内公民館、全隣組*でグループを立ち上げた。

*10 隣組。町会長が加入している隣組あり。

- ・ 隣組GLには1世帯内で複数名が参加可能。LINEグループには、町会加入者の86%が参加している。

成果・今後の展望等

<災害発生時の情報伝達・安否確認>

- ・ 多くの住民がGLへ登録したことにより、情報伝達及び安否確認が容易となった。登録していない住民のみを訪問すればよいことから、集計等、迅速な把握が可能となり、情報の取りこぼしもなくなった。

<会議の開催通知>

- ・ 町会役員は、役員専用グループに参加しているため、会議開催通知は、紙資料を届ける必要がなくなった。

<隣組住民への周知>

- ・ 隣組長は、会議で提出された議題等を隣組長が隣組GL内で情報を共有している。
- ・ ルール違反でゴミステーションに残されたゴミが発生した場合、衛生部長が写真を撮影・投稿し、隣組長経由で周知している。

<引き継ぎ>

- ・ 役員の引継ぎ時は、グループの参加者の加入・退会が容易で、GLを継続して使用することが可能である。

【ポイント】

- ▼ グループLINEの活用により、迅速な安否確認や情報伝達を実現